

6.3 生態系の人為的な攪乱状況（外来種の分布状況）

近年、貨物や農作物に紛れ込んだ種や輸入ペット昆虫などが野外へ逃亡あるいは放逐されることにより、外来生物に代表されるように、本来の生息地域以外での分布拡散が顕著に認められるようになりました。このような人の活動に伴う生物の移動と再野生化により、生態的に優勢な外来種によって在来種の減少や絶滅が起っています。また、外国産クワガタムシなどの例のように、自然界では起こらない異種間交雑によって雑種が形成され、地域固有な遺伝子の攪乱が懸念されています。

ここでは、生態系の人為的な攪乱状況を明らかにするために、外来種や、それらと生態的に競合する在来種の確認状況について整理しました。

【アオマツムシ、シバツトガ、アメリカミズアブ、ミスジキイロテントウ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシ、アメリカジガバチの確認状況】

（陸上昆虫類等調査）

● ブタクサハムシが急速に分布を拡大

外来種の定着状況について見るため、アオマツムシ、シバツトガ、アメリカミズアブ、ミスジキイロテントウ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシ、アメリカジガバチの9種を取り上げました。

近年侵入が記録されたブタクサハムシは、今回とりまとめを行った27河川のうち、東北地方から九州地方の20河川で確認されました。これら27河川では、前回調査が4河川、前々回調査では確認されていないことから、近年、急激に分布を拡大したことが明らかになりました。

シバオサゾウムシは、今回調査では3河川で確認され、中部地方の矢作川と中国地方の大田川では初めて確認されました。

同じく芝の害虫であるシバツトガは、前回調査では15河川、今回調査でも13河川とほぼ横這いの出現状況でした。

ミスジキイロテントウは、前回調査でも確認された中国地方の大田川と旭川の2河川から確認されました。

その他のアメリカミズアブやアオマツムシなど古くから侵入が知られている外来種については、確認河川数はほぼ横這いで、比較的多くの河川から記録されています。

（資料掲載：6-26～6-34、6-49 ページ）

確認河川数の比較 (対象河川: 27 河川)

種類	前々回調査	前回調査	今回調査
アオマツムシ	3 河川	12 河川	15 河川
シバツトガ	4 河川	15 河川	13 河川
アメリカミズアブ	11 河川	16 河川	15 河川
ミスジキイロテントウ	1 河川	3 河川	2 河川
ラミーカミキリ	4 河川	11 河川	11 河川
ブタクサハムシ	0 河川	4 河川	20 河川
イネミズゾウムシ	12 河川	18 河川	15 河川
シバオサゾウムシ	0 河川	2 河川	3 河川
アメリカジガバチ	5 河川	6 河川	9 河川

中国大陸原産のアオマツムシは、1898年に東京で見つかった以来、各地に広がっており、秋の夜に植木や街路樹の上からリィーリィリィリィーと鳴く声が聞こえます。調査結果からは、近年も拡大を続けている様子が見えます。

ミスジキイロテントウは、国内では1985年に沖縄本島で発見されたのが最初で、それ以降、本州などでも見つかっています。東南アジアから芝により持ち込まれたと言われています。

ラミーカミキリは、明治初期に中国大陸から輸入された麻植物について移入したと考えられており、成虫はラミー、カラムシ、ムクゲなどの葉や茎を食べます。

ブタクサハムシはもともと北米産の種ですが、1996-97年に関東地方と関西地方で、ほぼ同時期に発見され、急速に分布を拡大していることが知られています。今回の調査結果からも、ブタクサやオオブタクサを食草にしている本種が、急速に分布を拡大していることがうかがえます。

イネミズゾウムシは北米原産で、1975年に愛知県で発見されて以降、1986年には日本全国に分布が広がったと言われています。稲の害虫として知られていますが、イネ以外にもイヌビエ、ムツオレグサ、チゴザサ、マコモ、サヤヌカグサ、ホタルイ、オモダカなどを食草としています。今回の調査結果からは、本種が水田の害虫としてだけでなく、日本の河川環境にも定着していることがうかがえます。

シバオサゾウムシは北米原産で、芝の害虫として知られ、ゴルフ場などを通じて各地に広がっています。今回の調査では、3河川で確認されました。

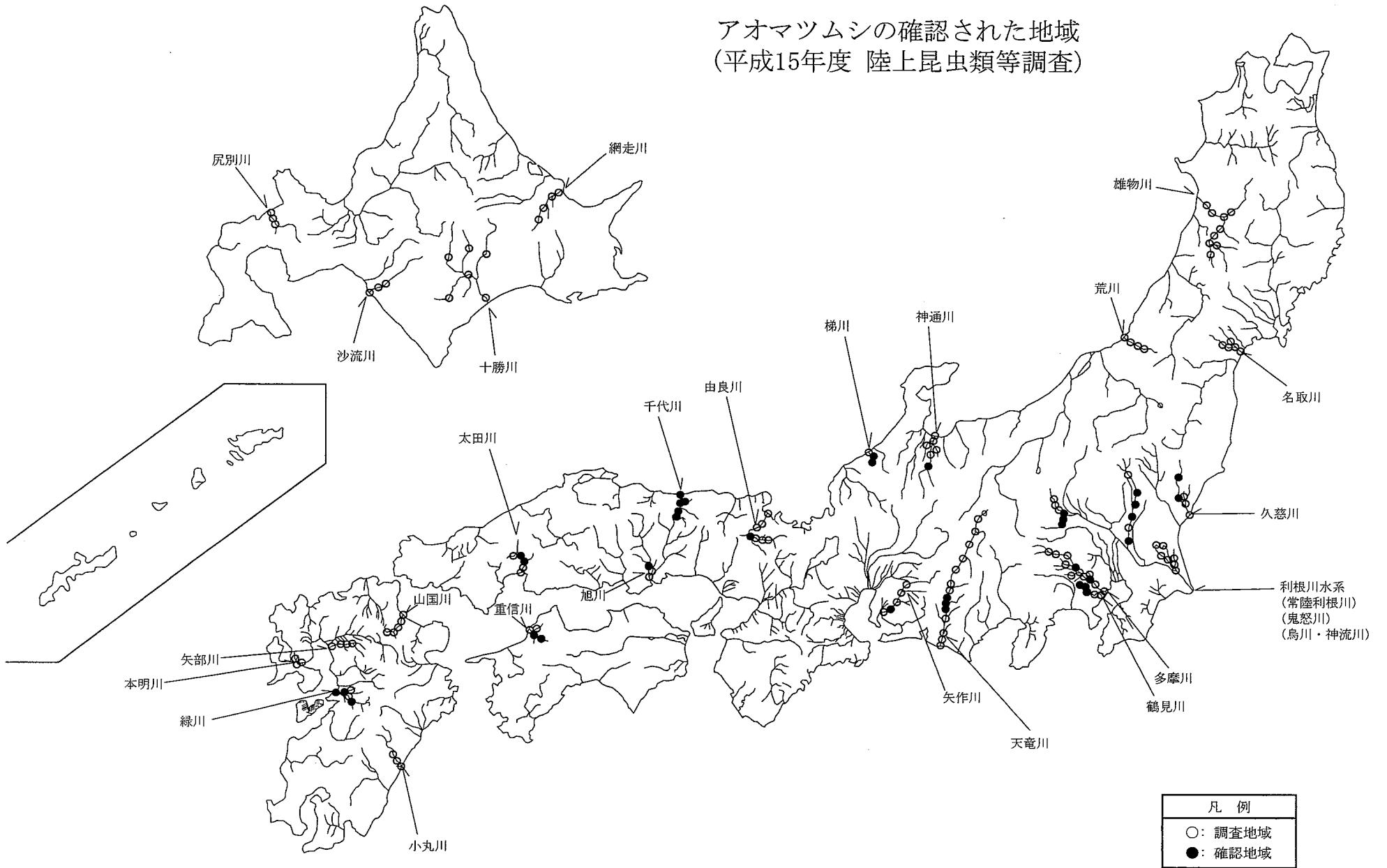
シバツトガは北米原産で、1964年に兵庫県のゴルフ場で芝の輸入とともに進入したとされ、以後各地のゴルフ場などへ急速に広がっています。今回の調査結果からは、河川でも分布を拡大している様子が見えます。

アメリカミズアブは、体長1~2cmの北米原産の種で、1950年頃東京で初めて発見されて以降、近年では夏から秋にかけて、各地で普通に見られるようになりました。市街地から山地まで普通に生息し、畑の脇に捨てられた野菜のくずや生ゴミなどにもよく発生します。

アメリカジガバチは北米原産で、1945年頃東京で初めて発見されました。泥で筒状の巣を造り、クモ類を狩ります。今回の調査では、9河川から確認されています。

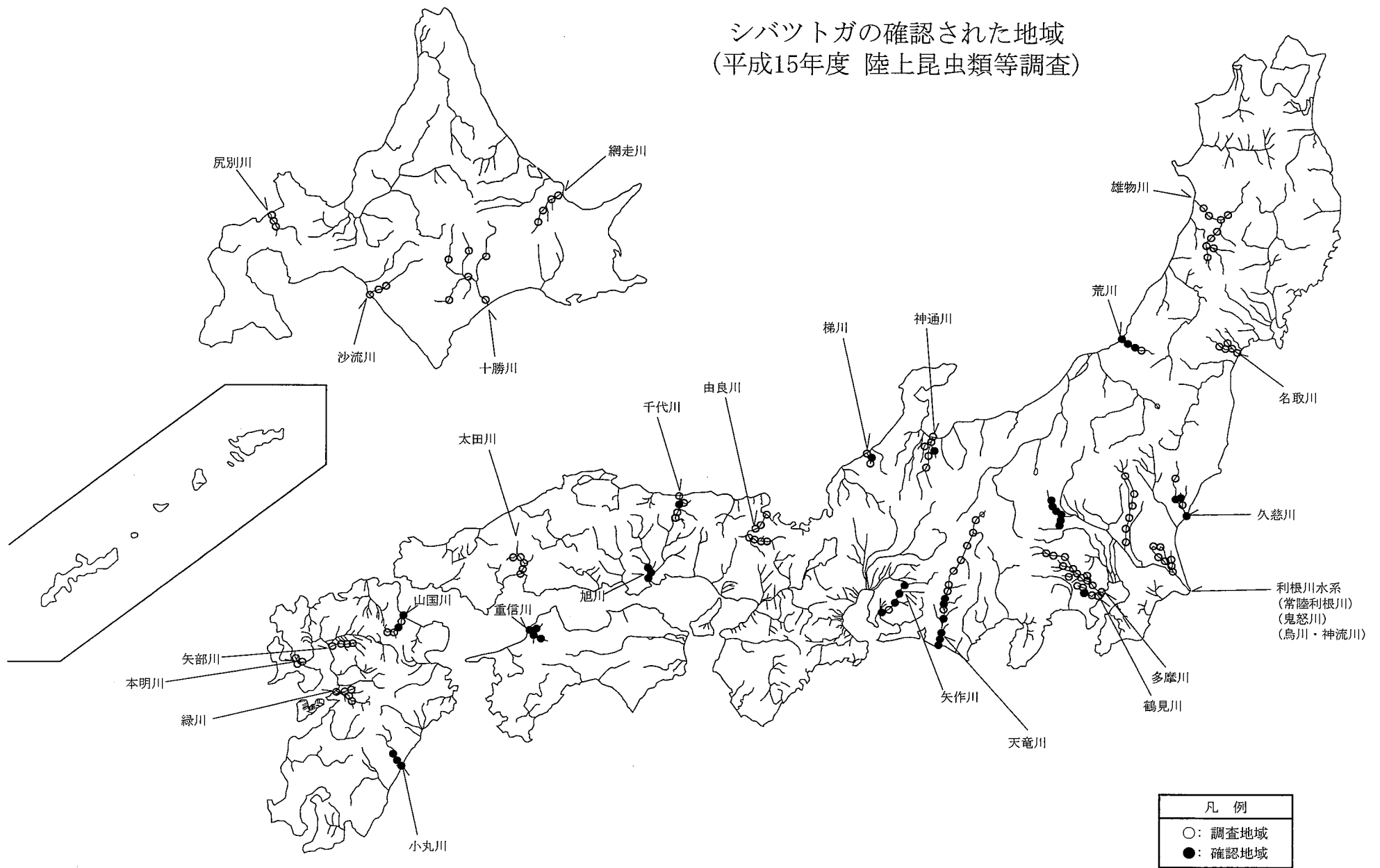
以上の多くの外来昆虫で、確認河川数は増加あるいは安定傾向がみられ、河川環境のなかで確実に定着している種が多いと考えられます。

アオマツムシの確認された地域
(平成15年度 陸上昆虫類等調査)



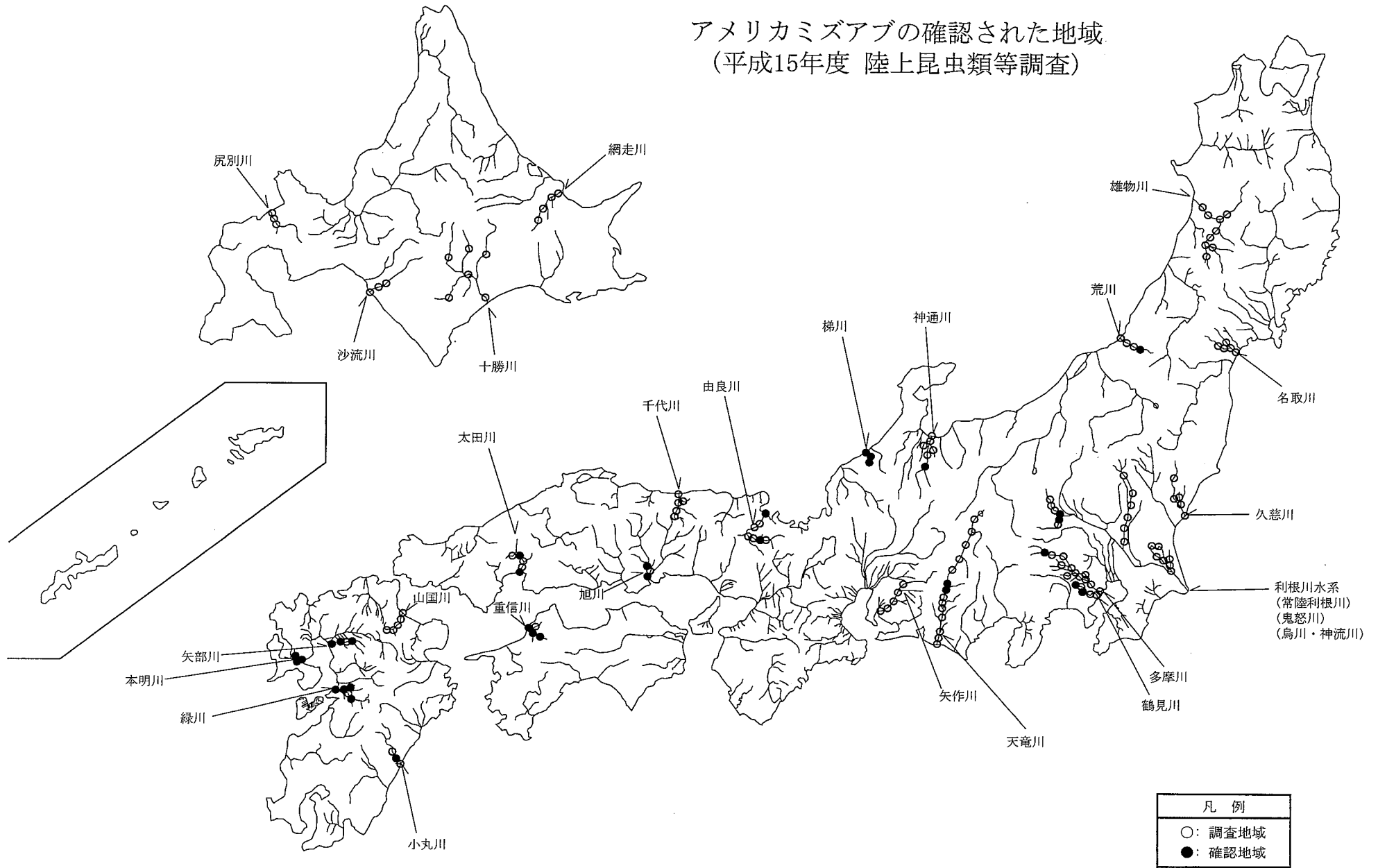
注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

シバツトガの確認された地域
(平成15年度 陸上昆虫類等調査)



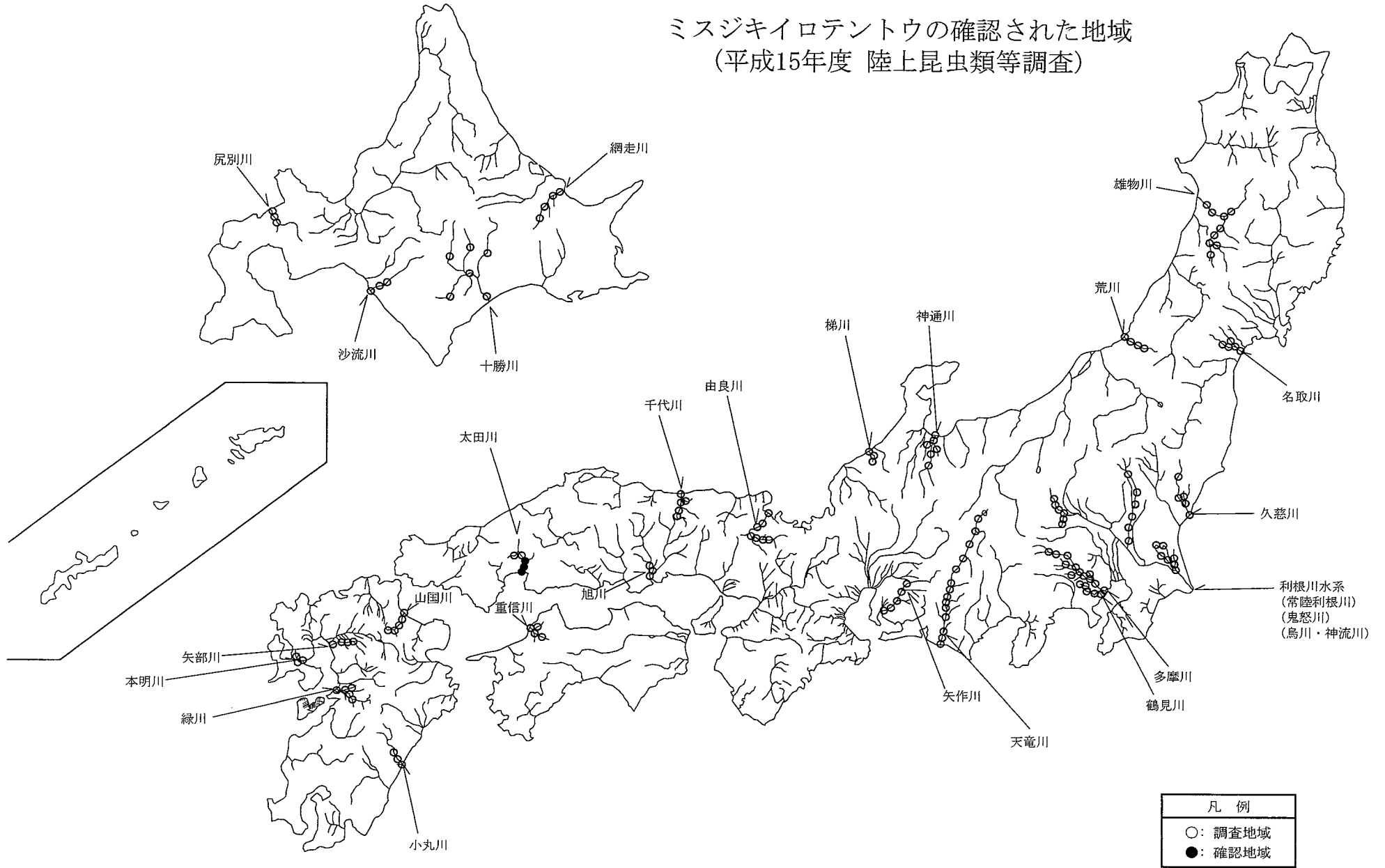
注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

アメリカミズアブの確認された地域
(平成15年度 陸上昆虫類等調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

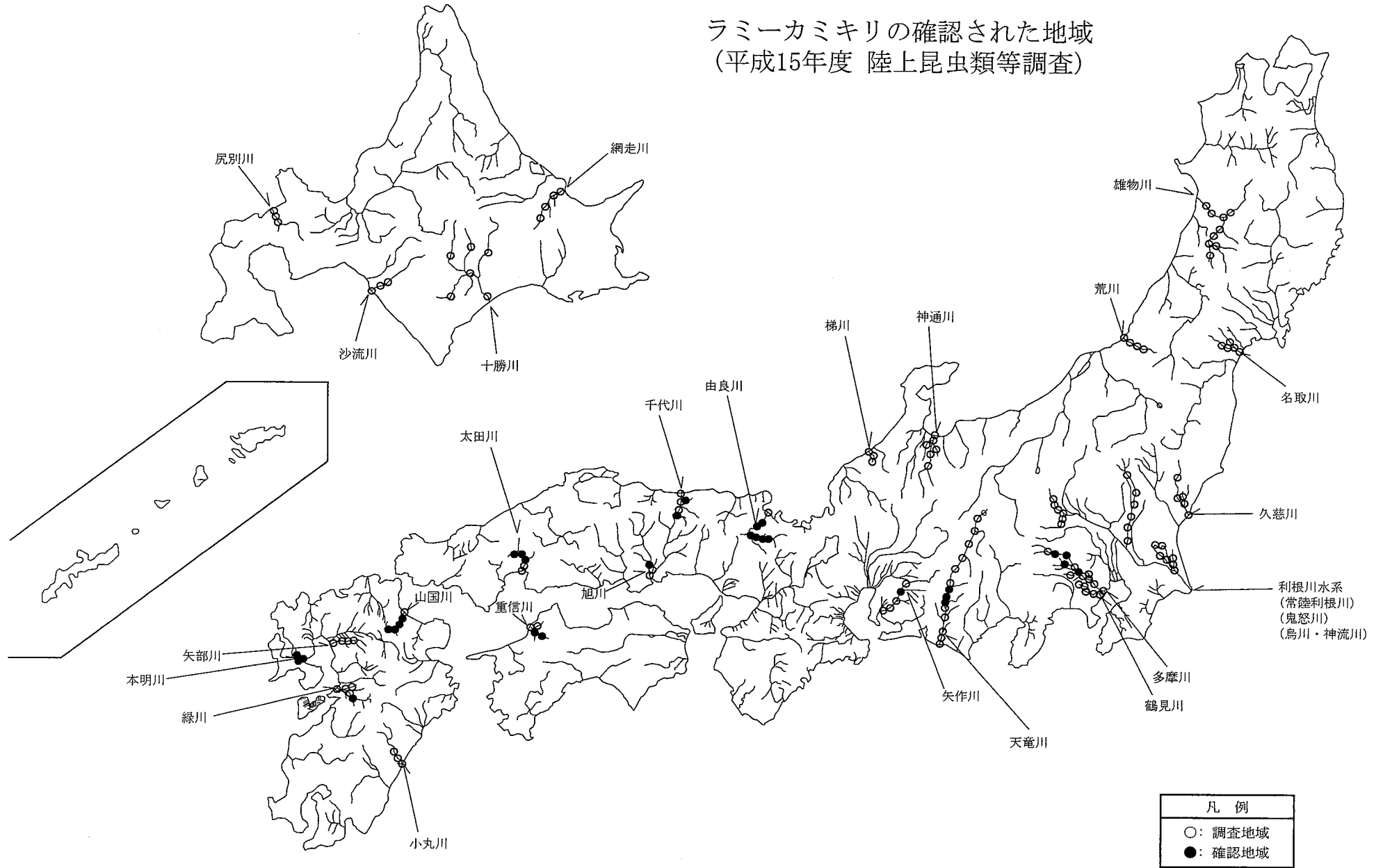
ミスジキイロテントウの確認された地域
(平成15年度 陸上昆虫類等調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

ラミーカミキリの確認された地域
 (平成15年度 陸上昆虫類等調査)

6-30

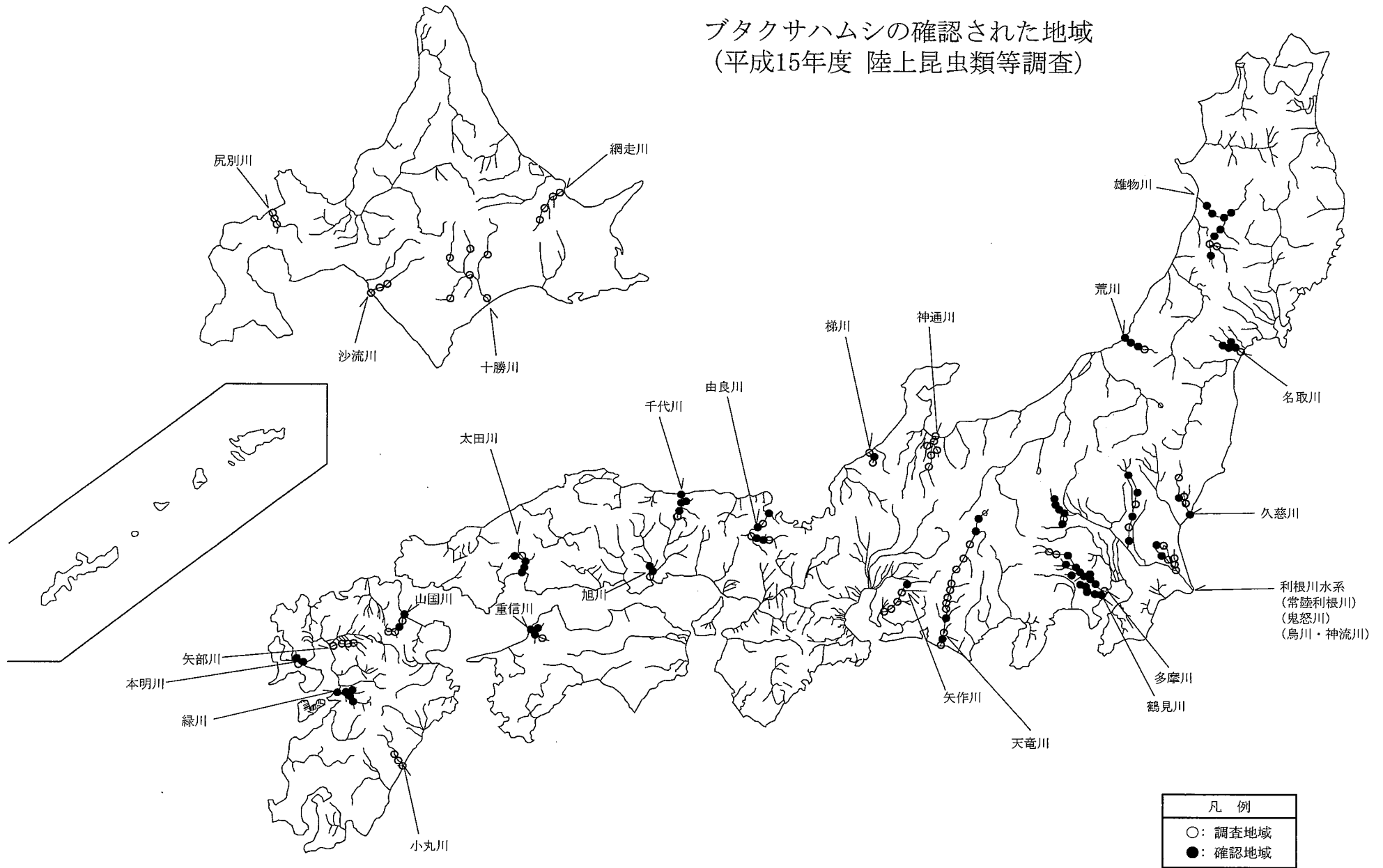


凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

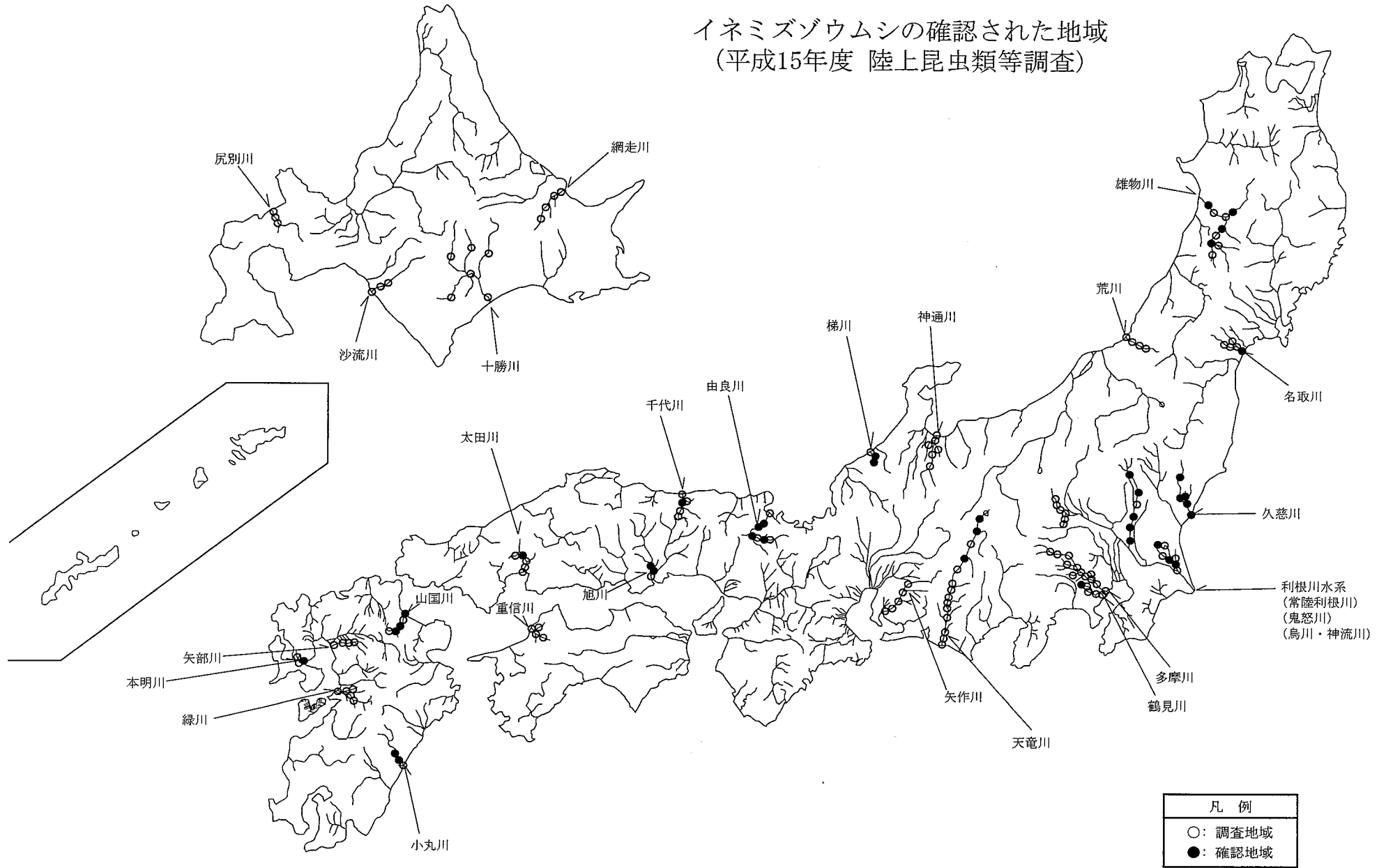
ブタクサハムシの確認された地域
(平成15年度 陸上昆虫類等調査)

6-31



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

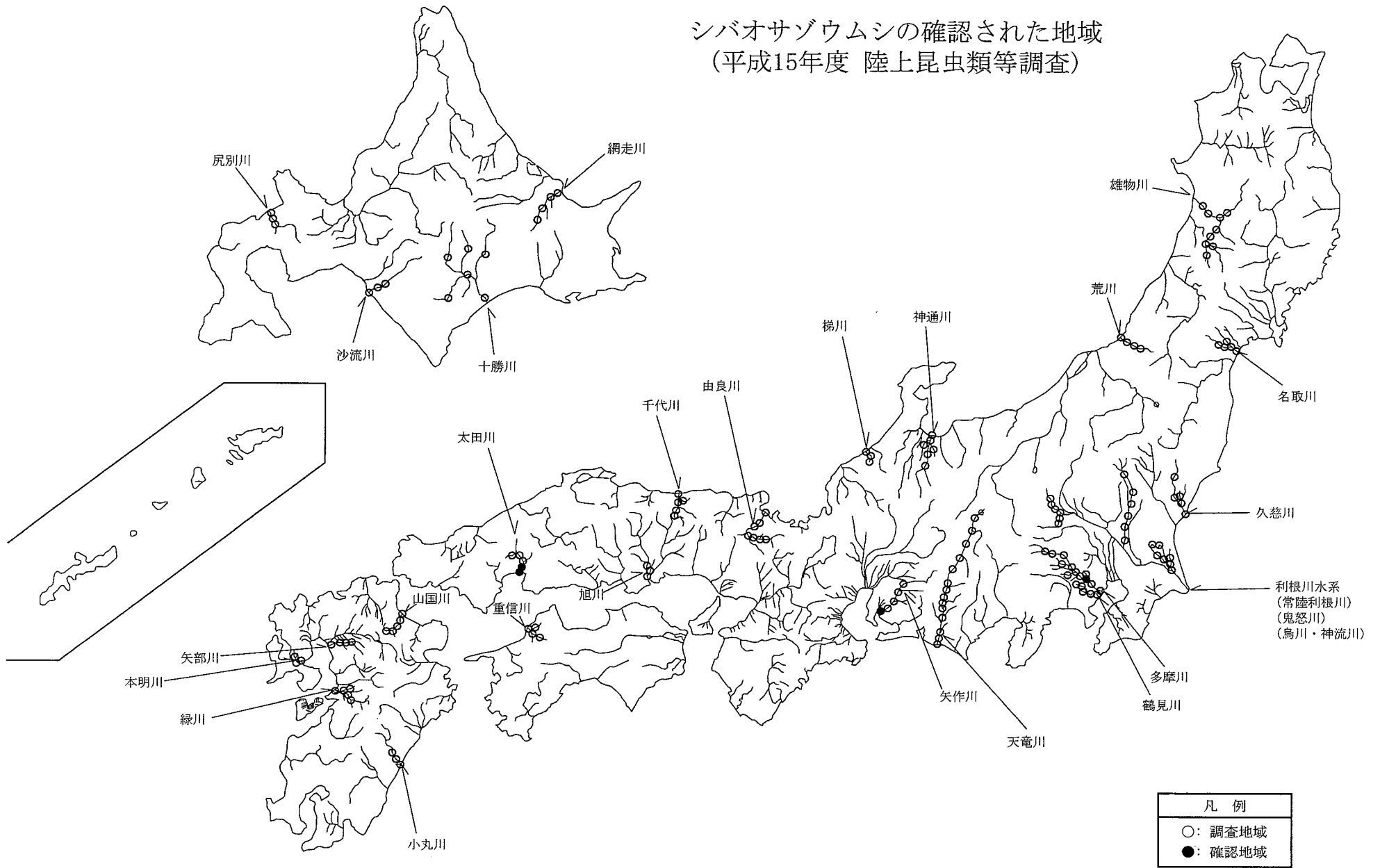
イネミズゾウムシの確認された地域
(平成15年度 陸上昆虫類等調査)



凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

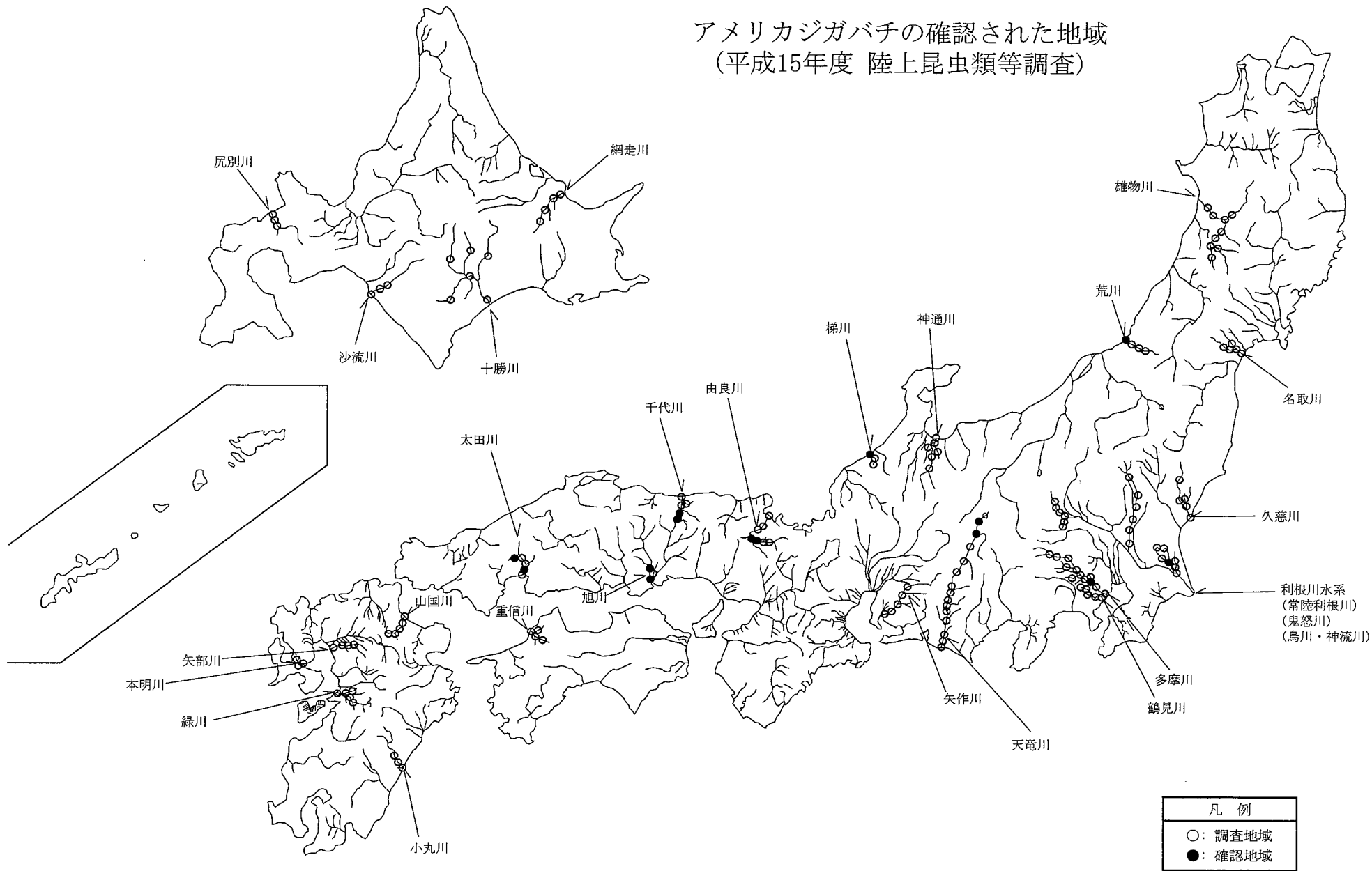
注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

シバオサゾウムシの確認された地域
(平成15年度 陸上昆虫類等調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

アメリカジガバチの確認された地域
(平成15年度 陸上昆虫類等調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。